

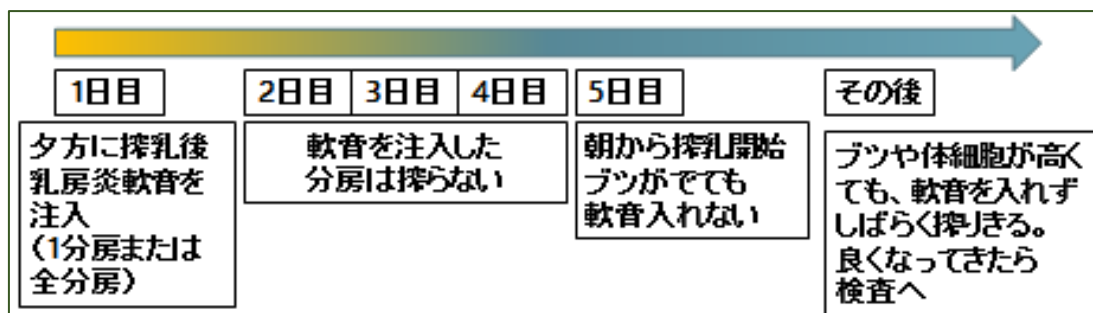
## あしよろ・ハードサポート通信

7月末から8月にかけて蒸し暑い日が続いたことで町内の8月上旬の乳生産量はガクリと落ち込んでしまい、体細胞の基準をクリアできなかった酪農場も目立ちました。今号は乳房炎対策のひとつ、「ショート乾乳」について改めて説明します。

### ◆ 「ショート乾乳」とは??

何度も抗生物質治療を続けているのに治らない乳房炎や、投薬後は落ち着いてもすぐにぶり返す乳房炎では、「ショート乾乳」が効果的なケースがあります。

「ショート乾乳」とは、難治性の乳房炎にかかった分房に抗生物質を注入し、その後3日間は薬の入った分房は搾らずにお休みさせ、そして搾乳を再開する、という治療法です。抗生物質を入れたまま3日間搾らないことで、生理活性物質（免疫力）が乳房内に保たれ、深部にいるしぶとい原因菌を抑えてくれる効能が期待できると考えられています。



(NOSAI 資料より抜粋加筆引用)

### ◆ 「ショート乾乳」できる乳房炎の原因菌

| ○チャレンジできる原因菌   | ×「ショート乾乳」してはいけない!    |
|----------------|----------------------|
| 環境性レンサ球菌 (OS)  | × 大腸菌 (CO)           |
| 環境性ブドウ球菌 (CNS) | × 黄色ブドウ球菌 (SA)       |
| 真菌性乳房炎         | × 急性乳房炎 (乳房の腫脹、熱発など) |

「ショート乾乳」は上の表のように、チャレンジできる原因菌と、やってはいけない原因菌があります。必ず原因菌検査を行い、獣医さんに相談して試してみるかを判断してください。また、抗生物質を注入して3日間搾らずに置いておくので、泌乳ピークの牛よりも、泌乳中期～後期で乳量が落ちてくる頃の牛への処置がおすすめです。

「ショート乾乳」での治癒率は100%ではありませんが、町内でチャレンジしてみた酪農家さんに感触を聞いている中でも一定の効果は見られています。

抗生物質治療を何度も繰り返し、それでも治らないOS、CNS、真菌性の乳房炎の場合は、諦めて盲乳にする前に「ショート乾乳」を試してみてもいいでしょうか。

### ◆ 環境中の原因菌を減らすことも、乳房炎対策の大きな一手



写真はフリーストール牛舎のベッドで、ちょうど乳房が接するあたりに白く消石灰が撒かれている様子です。

消石灰はpH12の強アルカリで、強い消毒効果を持ちますが、牛床でのその効果は1日程度のため、毎日散布するのが理想的です。

敷料と消石灰を混ぜる、撒いた消石灰の上から新しい敷料をかぶせるなどして、乳房に直接当たらないようにすると、肌荒れしづらくなります。

なお、滑り止めのタンカル資材は、アルカリ度が弱く、消石灰ほどの消毒効果が見込めないのが一般的です。

(久富聡子)

長雨で1番草の収穫に時間がかかりましたが、その分、例年以上の収量を確保できた酪農家さんが多いようです。逆に、今年あまり収量を確保できなかった酪農家さんは、圃場の植生を見直す必要があるのかもしれない。草地更新、デントコーンの作付、ビートの作付委託など、色々な選択肢があります。JA 営農部、またはハードサポートへご相談いただけたらと思います。



町内の酪農家さん・肉牛農家さんで、ジョイン社による殺虫剤の噴霧を開始しました。写真はプルスフォグという噴霧器を使って散布している様子です。殺虫剤は哺乳類には無害なので、牛舎に牛がいる状態でも散布できます。初めはプルスフォグの機械音に驚く牛もいますが、繋ぎ牛舎でも問題なく噴霧できています。牛舎内のサシバエにも効果てきめんです。

詳細は JA あしよる営農部 担当者へお問い合わせください。